

登録コード	E2551900	開講年度	2026				
授業科目	工芸実習				担当教員	田中 隆史	
英文授業名	Practice of Craft				副担当	猪瀬 昌延	
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4時限～5時限前半	対象学生	2年生
講義室	教育N 1 0 9			授業形態	実習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	制作を通じて、美術工芸に対する深い理解を得ることができる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	身近にある工芸を認識、実習を通し工芸の成り立ちを深く理解、その技法を指導できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	陶芸、鋳造、七宝の制作を通して、立体造形における素材の特性と表現の可能性について学ぶ。 陶芸では、土や釉薬の性質、成形および焼成工程の基礎を理解し、安全に配慮した制作方法を修得する。 鋳造では、金属の溶解や型取りといった工程の特性を学び、高温を扱う作業における安全管理と指導上の留意点について理解を深める。 七宝では、金属素地と釉薬（ガラス質）との関係を学び、加熱工程を含む制作における安全な作業手順を身につける。 これらの実習を通して、素材および制作工程に応じた安全配慮と指導方法を理解し、小中学校美術科において適切に指導できる実践的な能力の育成を目的とする。						
(5)授業計画	第1回：ガイダンス、道具の説明 第2回：陶芸実習1(石膏による印花制作) 第3回：陶芸実習2(板作り制作) 第4回：陶芸実習3(素焼き・下絵つけ制作) 第5回：陶芸実習4(釉薬掛け・本焼き) 第6回：金属実習1(アイデアスケッチ) 第7回：金属実習2(原型・紙型制作) 第8回：金属実習3(表紙・紙型制作) 第9回：金属実習4(金属流し込み) 第10回：七宝実習1(アイデアスケッチ) 第11回：七宝実習2(下地作り) 第12回：七宝実習3(線張り) 第13回：七宝実習4(釉薬置き、焼成) 第14回：七宝実習5 作品講評会 「授業アンケート」						
(6)成績評価の方法	提出作品 工芸素材を中心とした造形課題（制作工程を理解しての造形、表面処理による完成度70％）で評価します。 工芸の研究に必要な資料の準備、制作態度、（遅刻・早退、制作に対する集中力30％）で評価します。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可。						
(7)成績評価の基準	授業で示した課題の要件を概ね満たしていれば「水準にある」、課題の要件をすべて満たしていれば「やや上のある」すべての要件に加え工夫があれば「かなり上にある」すべての要件に加え工夫をこらし高度に完成していれば「卓越している」 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可。						
(8)事前事後学習の内容	事前学習（予習）は、当日の実習で扱う素材の特性や基本的な扱い方を文献や教材で調べ、下書きや制作構想をまとめる。 事後学習（復習）刃、制作した作品の振り返りや改善点をまとめ、技法や表現方法を理解し、次回実習や授業での活用を検討する。 自主学習時間の目安、単位当たり45時間のうち、授業時間を除いた時間（約22.5時間）を事前・事後学習に充てる。 1回あたりの目安：事前0.5～1時間、事後1時間程度。						
(9)履修上の注意	教材費は別途かかります。 実習の内容は進捗状況により変わります。 本授業は実習科目であり、単位修得のためには、授業時間内の学修に加えて、予習・復習等の授業時間外学修を行うことが必要である。 授業時間外学修も授業の一部として位置づけられており、これを前提に履修すること。 業時間外学修として、各回の実習で扱う素材や技法に関する事前調査、制作構想や下書きの作成、授業後の制作内容の振り返りや記録整理、技法や表現に関する復習等を行うこと。						

(10)質問，相談への対応及び連絡先	授業時に対応 連絡先：sikata70@mac.com
【教科書】	使用しない
【参考文献】	授業中に紹介する